

めざす児童生徒像

進んで学ぶ子 主体的に学び、思考過程を伝え合い、学びを深める子 (思考過程の視覚化)
仲よく助け合う子 仲間と関わり合いながら、互いのよさを認め合い高め合える子 (集団づくり)
明るく元気な子 自分の健康や命を大切に、何事にも根気よくチャレンジする子 (心身の育成)

※児童生徒結果・教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	中間				年度末				達成状況の分析	改善策
				児童・アンケート結果 (%)			※差	教員・アンケート結果 (%)			※差		
				教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者			
学校研究推進項目 (学校で設定)	学びの機会、高め合う活動	児童アンケート③の結果を90%以上にする	① 学級や学校がより良くなるように考えて行動していますか		97%				89%		11月に150周年記念児童発表があり、それに向けて目標を決め、振り返りもしっかりと行えたことが②③とほぼ100%に近づけた原因だと思われる。	大きな行事の目標が「学級や学校が良くなる」ことにつながることを子ども達に伝えておくことが必要だと感じる。	
			② 学級みんなで協力して何かをやると、うれしかったことがありますか		93%			97%					
			③ 学級目標を意識して活動しましたか		91%			97%					
			集計										
児童生徒共通 業務改善	働き方や業務の改善	教職員アンケートを100%にする	① 80時間超えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる	93%				93%			・80時間を越えている職員は一人もいない。本校の4〜12月までの時間外勤務の平均時間は約1.5時間である。概ね良好である。	・常に業務に負担感を感じていないか、バランス良く取り組んでいるか等を普段から聞き取っていきたい。	
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができる	100%				100%					
			集計										

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	児童・アンケート結果 (%)				教員・アンケート結果 (%)				達成状況の分析	改善策
				児童・アンケート結果 (%)			※差	教員・アンケート結果 (%)			※差		
				教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究	すべて100%にする	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している	86%				93%			・項目①については、1学期に否定的な回答をされた方2名は、2学期には肯定的な回答をしており、1学期に比べ研究取組の共有は、図れたと考えられる。 ・項目②については、2学期に1名否定的な回答をしている。その方は勤務時間に限られ、研究について共有する時間を確保することができなかったことが要因と考えられる。	正規雇用の教員不足や、ライブスタイルに合った働き方の見直しが進む中で、学校研究に限らず、情報の共有する時間の確保が難しくなっていく現状の中、現在対策として、PC等の設備を整えていき、同じ時間に集まらなくても情報を共有する工夫を実施している。これを継続しつつも、それに頼りきることなく、顔を合わせて協議できる場も確保しながら学校研究を進めている。	
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる	100%				93%					
			集計										
	指導力の向上	「主体的・対話的で深い学び」の観点からの授業改善	④について教員・児童アンケートの結果90%以上にする	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる	73%	94%	21	100%	95%	-5%	目標指標に掲げた項目④については、教員は80%から93%、児童は94%から92%であった。1学期には教員3名が否定的な回答であったが、その中の2名は肯定的な回答へと変化した。児童は、1学期に否定的な回答をした4名のうち、3名が肯定的な回答に変化している。これらから、伝えることが苦手と感じる3名の児童に対しての支援を教師が意識して実施できていると考えられる。	・目標に掲げた項目④において、1学期肯定的な回答であったが、2学期に否定的な回答をした児童が4名いる。この項目のみならず、他のアンケートについても否定的な回答をした児童一人一人の状態を把握し、教員全体で共有し、その子に合った指導を継続していく。 ・今年度は、他者の思いや考えを聞き、それを汲んで自分の思いや考えをしっかりと伝えることができる。すなわち「伝え合い」ができる児童の育成を目指し学校研究を進めてきた。しかしながら、授業の一部である「伝え合う場面」へ注力してきたため、授業スタイルや単元デザインと呼ばれる、授業構成や全体の流れについての研究はほとんど進めることができなかった。年度末の研究全体会で協議を行う予定であるが、目指す児童像育成のための授業スタイルや単元構成について研究を進めるべきだと感じている。	
				② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している	86%	93%	7	93%	90%	-3%			
				③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している	66%	88%	22	87%	90%	3%			
				④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達や考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている	80%	94%	14	93%	92%	-1%			
				⑤ 児童生徒は、振り返り活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変化を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている	100%	89%	-11	100%	93%	-7%			
学力的向上	カリキュラム・マネジメント	①②の平均が中間・・・85%以上年度末・・・90%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている	93%				100%		①②ともに90%を超えている。カリキュラムマップの活用とともに学校力向上に加え、150周年記念事業の時にはめあての達成にむけて各学年、いろんな教科をつないで学習発表することができた。また、職員会で学校力向上ロードマップの共有を図っていることも90%達成につながったのではないかと考えられる。	これからもカリキュラムマップの活用とともに学校力向上に加え、定期的な教育活動に振り返り、改善していく。小中連携については、連絡会の後に情報共有する場を設け、自校の取組に生かす。		
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している	100%				93%					
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる	100%				100%					
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	93%				87%					
			集計										
家庭学習	①「家で計画を立てて勉強している」②「家庭学習で学習用端末を活用する」80%以上にする	集計	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の話し方等を校内で共通理解を図っている	100%	80%	-20	100%	69%	-31%	①について、児童が「家で計画を立てて勉強しています」の質問に対して80%から11%減の69%であった。家庭学習強化週間では計画を立てて学習をする取組をしたが、それ以外では計画を立てて学習する意識が薄いためだと考えられる。	3学期から4年生以上は、毎日学習時間を決めて家庭学習に取り組む。また、日々の宿題に加え、自分のための学習に取り組むことができるように計画を立てて学習を進める意識が高まることを期待する。		
			② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している	80%	71%	-9	93%	82%	-11%				
			集計										